

## 第1章 計画の基本事項

### (1) 南アルプスユネスコエコパークとは

自然環境の保全と人間の営みの両立を実践しているとユネスコに認められた地域。

### (2) 計画の改訂にあたって

- ①計画の目的：構成10市町村共通の理念実現のため、本市において行動すべき持続的な取組の基本方針を示す。
- ②第2次計画策定の経緯：前計画の計画期間が終了し、これまでの取組の評価や新たに抽出した課題を盛り込み、社会の変化にも対応した計画とするための策定を行う。
- ③近年の動向：SDGs、国・県・市の法律・条例・計画の策定・改定、30 by 30、ESD・環境教育など
- ④計画の位置づけ：上位計画である静岡市総合計画や環境基本計画のほか、国・県を含めた関連計画・条例と整合。
- ⑤計画期間：令和7(2025)年度から10年間
- ⑥対象地域：本市の南アルプスユネスコエコパーク登録地域内

## 第2章 本市の南アルプスユネスコエコパークの構成要素

本市における構成要素（自然（動物、植物、地質など）、歴史文化（信仰、食文化、祭りなど））についてまとめ、南アルプスユネスコエコパークに登録される所以となった本市の構成財産を紹介する。

## 第3章 現状と課題・前計画の評価

### ◆前計画（H27～R6）の評価

前計画で示した基本理念

自然・人・文化・経済の源である南アルプスをいつまでも守り受け継ぐため、「自然環境の保全」を第一に考えるとともに、これを支える人や地域を豊かにし、人が関わりながら自然を守り、地域を守り、発展させていきます。



前計画における4つの柱

基本方針の柱	評価指標	基準値 2015(H27)年度	現状 2023(R5)年度	最終目標 2024(R6)年度	達成状況
自然環境の保全	ライチョウが市内に生息している人の割合	18%	53%	50%	◎
	南アルプス主要地域の高山植物種数	31種	38種	37種	◎
調査と教育	南アルプスモニタリング調査の実施と公表	実施・公表	実施・公表	実施・公表	◎
地域の持続的な発展	市が地域住民・団体と協働実施した事業及び地域主催の地域振興事業	21事業 (2018年度)	18事業	21事業	●
	井川地域内施設入込客数	137.1千人	101.1千人	120.0千人	×
理念の継承	南アルプスユネスコエコパークの認知度	51%	52%	54%	●

【凡例】◎達成（2024目標年度） ●概ね達成 ×未達成

### ●自然環境の保全

・高山植物種数は目標を達成した。千枚、中岳、熊の平で防鹿柵の設置を進めていることが成果の要因の一つと考える。「種数」という指標でみると維持されているが、一つの種が優占しており種による被度の偏りが大きいという現状もある。

### ●調査と教育

・動植物環境調査、ライチョウ生息調査など毎年実施したため、目標を達成する見込み。1年ごとの経年的な変化量は小さいため、より有効的な調査手法・内容・頻度等を検討していく必要がある。

### ●地域の持続的な発展

・井川地域内施設入込客数は2020(令和2)年度からのコロナにより外出を控える動きが強まったことから急落し、そこからは回復傾向にあるものの現状では達成が難しい。  
・地域との協働事業数も同年から中止が相次いだが、回復傾向である。

### ●理念の継承と管理運営体制の構築

・認知度は、南アルプスユネスコエコパーク展や出前授業等による啓発に力を入れてきたことから概ね達成の見込みだが、基準値からほぼ横ばいの傾向にある。

【総括】評価指標については概ね達成している。具体的な成果は、防鹿柵の設置・維持管理の有効性が確認できたこと、リニア事業の開発前の現状について継続した調査を行えたことなどがある。一方で、児童・生徒の環境教育の質の向上、無形民俗文化財の保存団体などの後継者不足や近年の観光ニーズの変化への対応が必要であり、地域住民・関係団体の連携や、外部（エコパークエリア外）との協働の推進による力や知の集結が求められる。

### ★現状

《市民アンケート》

H27調査と比べ、南アルプスの自然が守られているかについて「意識したことがない」と回答した人の割合は減少し、自然環境に対する興味関心は強まっているものの、そのうえで「守られていない」と回答した人の割合は上昇している。

⇒自然環境の保全事業の継続

⇒保全事業に対する地域・企業・個人と行政が協力して取り組んでいく仕組みの構築

⇒保全事業について正しく認知してもらうための情報発信の強化

《有識者ヒアリング》

ライチョウや高山植物の調査は継続が必要と考えている。今後の開発行為による外来植物の侵入等に対する対処方針を検討する必要がある。

⇒各種環境調査の継続と開発に対応した新たな調査手法の検討

《企業・団体》

環境保全活動や登山道・山小屋整備等々、南アルプスの保全と活用を推進していくために必要な財源が少ない。

⇒活動資金の継続的な確保

《井川住民》

人口減少や高齢化、それによる農地の荒廃、空き家の増加等に不安を持っている。また、移住者・観光客の増加による地域活性を望んでいる。

⇒移住促進事業の継続による関係人口の確保

⇒地域資源の磨き上げとその効果的な情報発信の検討

⇒来訪者に対応できる宿泊施設、食事処、案内所といったハード面の整備による受入体制の構築

《政策シート等分析》

井川特有の歴史文化が魅力として市民に認識されていない。さらに交通アクセスの悪さ、観光客の受入体制・インバウンド対策が不十分でもあり集客力が乏しい。

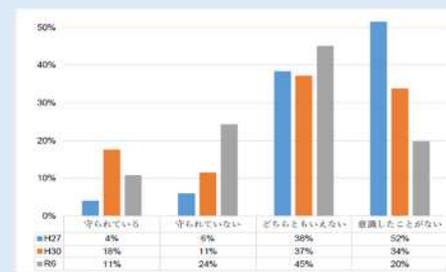
⇒ミュージアム整備による情報発信拠点の構築

⇒外国語看板や多言語対応可能なガイド育成等インバウンド客への対応策の構築

### ★今後取組が必要な課題

- ①自然環境の保全に関する課題（希少動植物の生息数や生息域等の自然環境の変化が著しい）
- ②調査に関する課題（気候変動や開発に対する現状把握には継続した調査によるデータ集積が必要不可欠）
- ③魅力向上に関する課題（地域資源の魅力が活かしきれず、訪問意欲につなげられる“モノ”の創出につなげられない）
- ④情報発信・環境教育・人材育成に関する課題（地域資源の魅力が伝わりきれず関心の引き出しに苦慮している）
- ⑤連携・協働に関する課題（地域住民・関係団体との連携による知の集結が不十分）

※個別の課題の詳細は第5章に記載



基本理念

自然環境と生物多様性を保全しながら、豊かな地域資源（自然、食、体験、人材）を磨き上げ、それらの持続的な利活用を通じ、住み続けられる地域を目指します。

★基本理念達成のための5ステップ

※評価指標(KPI)については現在策定中の実行計画にて示す  
※目標年度は第4次静岡市総合計画の終期に合わせてR12年度とする予定

課題	基本方針①まもる【自然環境のさらなる保全】	新規施策	SDGs	評価指標 (KPI) 【検討中】
<b>保全に努める課題</b> 気候変動や動物の食害等による高山植物への被害 生息南限のライチョウの個体数が減少する可能性がある 気候変動や開発行為による環境への悪影響が懸念される 無秩序な開発による景観の阻害が懸念される	高山植物の保護の取組の継続 ライチョウ保護の取組の継続 気候変動や開発に対する注視と対応方法の構築 自然景観への配慮		 南アルプスの高山植物種数 現状値：38種 目標値：38種の維持	現状値：R5年度/目標値：R12年度
<b>課題</b> 環境の経年変化を知るために継続的なデータ収集が必要 将来的な気候変動や開発に対する準備が不十分 自然や歴史文化等の情報が一つに集約されたデータベースがない	モニタリングの継続 気候変動や開発に対応した新たなモニタリング体制の構築 自然や文化に係る情報の集約と活用		 モニタリング調査の実施 現状値：実施・公表 目標値：実施・公表	現状値：R5年度/目標値：R12年度
<b>魅力向上に努める課題</b> 地域資源の魅力が活かしきれていない 観光サービスが充実していない 野生鳥獣による農作物等への被害が深刻である 井川地域への交通アクセスが悪い ハード面における来訪者の受入体制が不十分	地域資源の活用促進の支援 地域資源を活かした新たなプログラム・コースの開発 地域資源の持続可能な利用 交通アクセスの向上 来訪者の安全性・利便性・快適性の確保		 井川地域内施設入込客数 現状値：101.1千人 目標値：150千人	現状値：R5年度/目標値：R12年度
<b>環境情報発信に努める課題</b> エコパークエリア内への観光入込客数が伸び悩んでいる インバウンド対策が不十分 行政の取組に対する市民参加が進んでいない 環境教育・情報発信の拠点施設が充実していない 後継者不足	誰にでもわかりやすい情報発信 魅力の発信方法の再構築 インバウンドに対応する体制構築 南アルプス教育の推進 環境教育・情報発信の拠点整備 地域の担い手の確保と人材育成		 南アルプスユネスコエコパーク認知度 現状値：52% 目標値：60%	現状値：R5年度/目標値：R12年度
<b>関係構築に努める課題</b> 関係団体や民間事業者との協働事業が少ない エコパークエリア内の定住者の減少 活動資金の確保や外部人材との連携が不十分	管理運営体制の連携強化 移住の促進 南アルプスパートナーシップによる連携 南アルプスユネスコエコパーク保全活用基金の活用		 南アルプスパートナーシップ プ賛同団体数 現状値：20 目標値：100	現状値：R6年度/目標値：R12年度

★基本理念のイメージ

南アルプスの貴重な動植物、井川地域の歴史文化といった地域資源を今後も継続して守っていくとともに、それを活かし、発信して、様々な人に南アルプスや井川地域を訪れてもらい、地域内での交流を促すことで、交流人口や関係人口の増加につなげ、地域経済の好循環を生み出していきます。

◆新規施策のポイント

《1 気候変動や開発に対する注視と対応方法の構築》  
開発事業者に対し自然環境への影響が懸念される場合の回避・低減・代償措置の適切な対応を求める

《2 気候変動や開発に対応した新たなモニタリング体制の構築》  
外来種調査やその他想定しうる変化に対応した調査の手法を検討する

《3 交通アクセスの向上》  
井川地域へのアクセス道路の改良や、井川地域内の交通再編による回遊性の向上に取り組む

《4 来訪者の安全性・利便性・快適性の確保》  
老朽化した市営山小屋の大規模改修や登山道の整備を行う

《5 環境教育・情報発信の拠点整備》  
新たな情報発信の拠点施設であるミュージアムの整備・運営をしていく

《6 管理運営体制の連携強化》  
南ア連携協、地域協に加え、県の団体を加えた「南アルプスモデル」を活用した体制を構築する

《7 南アルプスパートナーシップによる連携》  
賛同者を増やし、その知と力を活かして協働の和を広げていく

《8 南アルプスユネスコエコパーク保全活用基金の活用》  
南アルプスを応援、援助してくれる人を増やし、保全と利活用のより効果的な取組を実行していく

第6章 管理運営体制

★推進体制：南アルプス自然環境保全活用連携協議会や静岡地域連携協議会、関係部署・団体等との連携のほか、環境政策連携統括会議での情報共有、相談・助言を受け、効果的な施策の推進を図る。

★計画の実施と進捗管理：第2次計画における具体的な取組や評価指標（KPI）を示した実行計画を策定し、年次報告書として毎年度の取組実績と評価指標の達成状況を取りまとめることにより、PDCAサイクルに基づく進捗管理を行うとともに、必要に応じて計画の見直しを行う。